

祈りの文化を 受け継いでいく 人びと

Vol.
01

First 2021

株式会社 新庄ニューライフ互助会
令和3年6月発行



(株)新庄ニューライフ互助会
代表取締役 齊藤慎一

白龍山福田院
長峰広道 住職

山形のこけし寺 福田院

“心”を供養する

新庄市の市街地から南西部、国道47号線沿いに福田院があります。当代のご住職は長峰広道さん。「山形のこけし寺」と言われる契機となったのは、令和2年のコロナ禍で外出が極端に制限されていた時期です。先代の遺したたくさんのおけしを一般公開しようと、ひとつひとつ丁寧に新聞紙に包まれていたおけしを取り出してお寺に飾ったところ、檀家さんから「家にあるおけしを供養してほしい」と依頼がきたといひます。

「今まで一緒に過ごしてきた想いを引き取るという形で、心を抜くという供養の方法があるんです。師匠から弟子へ、私たちは受け継いできました。お仏壇やお位牌なども同じです」と長峰住職。

先代のおけしの保存状態がよかったことから、おけしファンも訪れるようになり、人づてに評判が広まっていき、そのうち遠方からもおけし供養の依頼がくるようになりました。

また、おけしだけではなく、人形やお雛様、ぬいぐるみ、剥製なども同様に供養します。「親がいつも手入れして愛でていたものだから処分しにくい」「上京した娘が小さな頃に大事にしていたものを捨てるのは偲びない」と理由をさまざまです。

「神社だとお祓いをしますが、私たちがするのは供養です。お経をあげて供養をしたあと、お焚き上げをしますが、やはり先代が集めたおけしを見て、何かできないかと考え、年に一度でもいから合同供養祭をしたいなと思っています」

合同供養祭に合わせて「うちのこけしも供養してほしい」と思われた方はぜひお越し下さいとのこと。

福田院に飾られているおけしは法事で訪れる際や御朱印をもらいにくる際、もちろんそれ以外の機会にもいつでも見学ができます。コロナ禍にある中、それでもたくさんの人にお寺との繋がりを持ってほしい、と長峰住職は願っています。



曹洞宗 白龍山 福田院

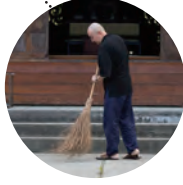
場所 / 新庄市大字福田934
問 / 0233-22-7149
受付 / 9:00~16:00



f @fukudenin
@fukudenin

長峰住職の一日

- 🕒 4:30 ◆ 起床
- 🕒 5:00 ◆ 朝のお勤め
お経をあげる
ご本尊や位牌堂にお給仕...
本堂の掃除...
感染予防の消毒
雪かき(冬期)
- 🕒 8:00 ◆ 朝食
法事の準備
お塔婆や過去帳、
御朱印の染筆
- 🕒 12:00 ◆ 昼食
事務・会計作業
草むしり(夏期)
- 🕒 19:00 ◆ 夕食
読書
- 🕒 21:30 ◆ 就寝



子どもが独立したので朝食時間は遅めです。葬儀や法事がある日はそのスケジュールで動きます。葬儀の入らない友引の日などは寺院関係の会議が入ったりします。休みといえる日はほとんどなくて、夜は本を読んでいます。刀剣関係の古書をまとめています。(長峰住職)



檀家との繋がり

福田院の裏手には田園風景が広がっており、遠く鳥海山を望むことができます。檀家のほとんどが農業を営んでおり「和尚さん、この野菜採れたから食べて」と地域の人のたちからさまざまな農産物が届くといえます。葬儀などで不在だった間に玄関に野菜が置かれていたりもするそうです。
「お寺には私や妻のどちらかだけでも、なるべく居るようになっていますが、どうしても留守になってしまったりはあります。でも、置いておいた野菜などを見て、これはどこのお宅だな、ってわかるくらい近い関係です」と長峰住職。
少し前まではいつもお寺の茶の間に誰かがいて、近所の交流の場になっていたとのことですが、そのことからお寺は昔から地域の情報が集まる場所でした。「あの檀家さんは今どうしているかな」と、各家庭の暮らしに気にかけるのは、お寺の役割のひとつです。



白龍山 福田院 長峰広道 住職

葬儀の文化を受け継ぎ、残すことへの強い思い

コロナ禍でリモート化が進み、葬儀本来の意味が失われてしまうことを長峰住職は懸念しています。手を合わせてお別れを告げる、読経中にお焼香をする、ご遺族と互いに深く頭をさげる、その両者のやりとりが大切だといえます。どれだけ人の交流が制限されていても、葬儀となれば、必ず皆が礼装して集まる、その文化・礼節は失われてはいけません。「近いご遺族が遠方でどうしても来られない場合、動画を撮って見せたい、などのご要望にはお応えしています」と、リモート化を全て否定するわけではないのです。
葬儀業界も今後のあり方を見直さなければならぬ中で「葬儀社さんと寺院が連携を取り、一般焼香の際にはご遺影だけでなくご遺骨にお参りし、喪主様にもご挨拶ができるよう時間の調整を計るなど住職としてできる限り対応していきたいです」と語ってくださいました。



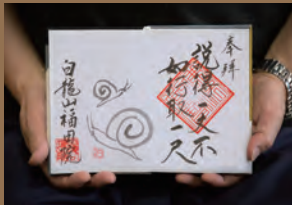
福田院に祀られている地藏尊 福田原処刑場の廃止に伴い福田院に移設

福田院の御朱印

福田院の御朱印は毎月デザインが変わります。禅語や絵柄も月々で違います。新しい特別御朱印も準備中。葬儀などで住職不在の際には、書き置きしたものを用意しています。



通年御朱印



7月の限定御朱印

五代目 修行日記

葬儀社を営む家族の暮らし

第一回



齊藤崇広

平成2年新庄市生まれ。曹洞宗大本山永平寺での修行を経て、現在は横浜の寶袋寺で納所中。



(株)新庄ニューライフ互助会 代表取締役 齊藤慎一

明治四十三年創業「香花堂」四代目。ご葬儀、仏壇・仏具販売、ご供養のトータルサポート会社として100年余り、地域に支えられ現在に至る。

発行への想い

未だ収束の見えないコロナ禍で、リモート化だけでなく葬儀そのものが簡略化されつつあります。そんな今、私たち葬儀社こそ使命を持って「供養」の本質に立ち返る時に来たと感じています。受け継がれてきたこの「祈りの文化」を絶やさぬよう、お寺と人々の架け橋となる情報紙となれば幸いです。

父は葬儀全般、母は香花堂の担当でした。夜中でも早朝でも車庫のシャッターが開く音がする「仕事に行ったんだな」というのがわかります。葬儀の連絡が入ると家族旅行を途中で切り上げて帰ることもありました。
— 学生時代のこと
東京の高校に進学し、夜は「天ぷらからさわ」でアルバイトをしていました。両親からは「将来これになりなさい」というようなことは一言も言われたことがなかったのですが、父が東京に来たときに、さまざまな職業の方とお会いする機会を設けてくれ、「こういうお仕事もあるんだ」と勉強になりました。具体的な将来は当時考えていませんでしたが、大学では仏教学部に進みました。在学中に実家に帰省して香花堂にいたときに、東日本大震災が起これ、被災地で霊柩車が必要だとの依頼で、現地に同行しました。そのときに体験した出来事が自分の転機となりました。
(第一回に続く)

